

「年越しそばは『左きき』奮闘記」

江戸ソバリエ 15 期 益井 徳弘

12月の初め、例年通りにそば打ち仲間から「年越しそば用のそば粉は要りようですか？今年『常陸秋そば』と『千葉在来』が手に入ります」とのお電話を頂きました。即答できずに此方から連絡をしますと電話をきって悩みました。「そば打つのも一年以上のブランクがあり、それよりもこの右肩が大丈夫だろうかと・・・」

チョットしたことでも右肩を痛めたのは前年12月の初め、丁度同じように年越しそば用のそば粉を4kg手配した直後の夕刻でした。その後一週間しても肩の痛みはひどく、たまらず整形外科に行き診察をしてもらったところ、腱板断裂。その断裂部分の穴が大きめで手術も無理との診断でした。やむを得ず痛み止めの薬を飲みながら辛抱の日が続き、それでも2～3か月経つと痛みも和らぎ、半年後には重いものは持てないものの日常生活には支障のない程度まで回復、秋口には右肩を無理さえしなければ普通に右手を使えるまでに回復しておりました。

そこで「今年こそは年越しそばを打つぞ」と決心して「常陸そば」と「千葉在来」を1kgずつお願いして、そば粉が届いたのが12月の半ば過ぎでした。余りにもそば打ちのブランクが長いので「こて慣らし」が必要と思い、年の暮れが迫った30日の午前中に大掃除の終わった事務スペースに延し台等を置き、いざそば打ちの開始。

そば粉は「常陸秋そば」を例年の半分近くの500gとつなぎを50gにして開始する。一年以上の空白で忘れていたことも多く特に水回しは初心者みたいな感覚でした。そのせいか水の量が多めとなり柔らか目になってしまいました。それからコネに入ると20回30回とこねるうちに心配していた右肩に違和感が。こねる時右手を突っ張り、体重を載せることで肩にかなり負担がかかるようで、残りは力を入れずにまとめて次の工程へと進み、気落ちしながらも各工程を思い出すことだけでも良しとして最後の切りまで終わらせ、そば用の細切りも半分だけとし残りは蕎麦刺し用に切ることにしました。

打ち終わると丁度お昼の時間、一応「打ちたてのそば」をゆでて家人と試食、家人曰く「久しぶりにしては良くできているけど、麺が粉っぽくコシが無いわね！」とズバリ！予想どうりのご指摘で返す言葉もなく、自分としてはただ「明日の本番の年越し蕎麦はどうすりゃーいいのだろうか」と思案するばかり・・・。
ところが寝る前になって名案が浮かびました「右手がダメなら左手があるじゃないか」明日はコレでいこうと決めて一安心して眠りについたのでした

さてその翌日の大晦日、残りの片付け事が終わったのが午後遅め。早速準備して本番の年越しそばのそば打ちの開始。

そば粉は「千葉在来」を昨日と同じで 500g とつなぎ 50g にしてまずは水回し。昨日と違い以前の感覚が戻ってきたようで 2 回目の加水位から掌に粉の水気を感じられ最後の決め水の調整も旨く行き自分好みのやや硬めでまとまりました。そこでいよいよ左手でのコネを開始。こねる行為は割と単純のため 70 回 80 回と納得が行くまで上手くこねて最後の菊練りに。しかし右手でも苦手な菊練りはさすがに形にはならずただ空気を出すことだけに専念しへそ出しをしでっち上げました。ここまでは順調でした。次の手延しは今迄とは逆に左手を下に、時計回りと反対回りにするのに少し戸惑いながらもまあまあ出来で、丸出し、四つ出しは両手使いなので今迄通りの勝手で良く生地が硬めのため強めに延せて肉分けするとほぼ 60cm 角の生地になり上々の出来でした。この後の本延しで 90 cm 弱の長さまでほぼ均等厚さで上手く延せたので厚さも 1.5 mm 以下になり今迄のそば打ちの経験の中でも上位に入る出来と自己満足しておりました。後はこの生地をたたんで切るだけと、何時ものように延していた生地の長手を丸めて 90 度回転して二つ折りにし手元に引き寄せ二つ折りを 2 回繰り返して折りは完成、あとは切るだけと切り板に載せました。「アーツと!?!」その時になってやっと気が付いたのです。折りたたんだその生地の幅が 15cm 程しかない。そうです、いつもの半分の量のそば打ちだったので幅出しと本延しが一緒になって一工程少なくなっており狭い 60cm の方を先に二つ折りにしなければいけなかったのです。それをいつもの工程の積りで長手を先に二つ折りする失敗でした。後戻りも出来ず唯々丁寧に 1.5mm 角を目指して切り終えました。この最後にきてのこの失敗は残念の一言ですが、それでもこれからのそば打ちは楽しくなりそうな予感がして十分に満足する自分がいました。

TV の紅白歌合戦も終盤にきた頃に蕎麦を茹でる準備をし、年越し直前にゆでたてを家人と一緒に食べ始めました。家人曰く「昨日と比べると段違いに良く打てるわね。でもちょっと短くツルツルではなくツルツでおしまいで残念ね。」とまたしてもズバリ！此方は「ウマイ、ウマイ、ツルは千年、カメバコシあり、メデタシ、メデタシ」と一人でうそぶいていると 除夜の鐘が ” ゴーン”。「来る年が良い年でありますように」(合掌)

「そば打つも 人あってこそ 年の暮れ 弘三」